

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901664		
法人名	社会福祉法人高志会		
事業所名	れんげ荘グループホーム (空)		
所在地	大阪府高槻市三島江四丁目15-5		
自己評価作成日	令和5年1月19日	評価結果市町村受理日	令和5年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiqyosyoCd=2770901664-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ぱ・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和5年2月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設である為、近隣小学校や幼稚園とのふれあい、花いっぱい運動への参加と地域の行事や活動等に積極的に参加して地域との関係を大切にしています。又、法人の行事にも地域の方に参加して頂き交流を深めています。施設行事では、入居者様の希望を伺いながら外食や買い物等の外出企画を実施しています。季節行事や昼食作り、おやつ作りにも力を入れています。園芸療法を取り入れた畑の作業や収穫、収穫物での行事食は皆様とても喜んで下さっています。今年度は、外出行事や家族懇談会が感染予防の為自粛となりましたが、再開された花いっぱい運動や近くの神社に初詣に行ったり、散歩や面会等が徐々に再開となってきています。入居者様の本当の笑顔を引き出せるように、日々穏やかに生き生きと過ごすことが出来るように、これからも支援していきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基礎として、グループホーム独自のスローガンを全職員の意見を取り入れて作成を行い、目に付く所に掲示する事で共有、実践しています。又、半年に1回スローガンの個人評価を行って、課題を見出し向上出来る様に実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、地域行事に参加したり法人行事にも地域の方々に参加して頂き交流を深めています。コロナ禍で自粛となっていました。地域行事の「花いっぱい運動」が12月に再開となり参加できました。暮らしの中では、地域での散歩時に挨拶を交わしたり、自治体の子供会の廃品回収に協力しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は、地域の活動や交流の場に入居者様と職員が共に参加して理解を広めていますが、今年度はほぼ自粛となっています。又、消防訓練や防災訓練を通して認知症の方の理解を広めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	例年は、2ヶ月に1回開催しています。今年度はコロナ感染防止対策として書面にての開催となりました。近況報告や活動状況の報告を書面にて各委員の皆様へ郵送で報告を行い、各委員の皆様からの意見やアドバイスを返送して頂き、内容を参考にサービスの向上と改善に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	例年は、介護相談員の方の訪問が1ヶ月に1回あり、ホーム内の問題点や改善策等を一緒に話し合っています。今年度は、市より一時中止との通知が届きました。又、市町村担当者様とは運営推進会議や電話や窓口などで相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成して、全職員に周知しています。又、定期的に勉強会を開催したり、新人研修の一環として意識付けを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の基づく、虐待の防止マニュアルを独自に作成して、全職員に周知行っています。又、勉強会を定期的に行って職員への意識付けを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修、認知症実践リーダー研修や、他の外部研修で学んだ内容を、グループホーム内での勉強会で職員に伝達講習を行っています。又、個々に必要な時には関係者と相談して活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を解りやすく説明を行って、その上で疑問等を尋ね、本人様や家族様が理解し納得された事を確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会で出た意見や要望等を議事録として残して、スタッフ会議で報告して検討を行っています。問題解決出来るように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているスタッフ会議で、職員からの意見や要望、提案を聞いています。それらの内容を、その後の運営評価や考察などに反映しています。又、普段より職員が相談や意見がしやすい様に、関係作りを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に1回は、職員の面談と評価を行っています。又、その都度必要に応じて面談を行って職場環境の改善の努めています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員全員に対して、介護技術や知識を指導し、確認している。又、個々に課題を設定し、必要に応じて研修を受けるように取り組んでいます。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>例年は、各事業所の勉強会や合同の行事への参加を通じて、交流や意見交換を行っています。今年度は、書面やオンライン等で参加しています。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談時は話しやすい雰囲気を作りように心掛けています。本人視点でアセスメントを行って、日常生活上の支援や困難な事背景を知り、問題解決に努めています。又、生活の中での各入居者様からの要望に対応出来るように努めています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用前から、家族様と連絡を密に行って、困りごとや要望、抱えておられる不安等を把握する様に努めています。サービスの導入後は、情緒的、手段的にサポートを行って不安の解消に努めています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントを通して見えた初期段階での課題を見極め、問題解決に取り組んでいます。幅広い視野を持ち、入居者様からの要望や支援に取り組んでいます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で会話を持つように努め、要望や意見を聞きだして、自身で出来る事を増やす支援を行っています。家事・仕事を手際よくお手伝いし、職業に特化した事を教えて下さり、色々とアドバイス等を下さいます。暮らしを共にする者同士として、感謝の気持ちを忘れずに良い関係が築けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議等で意見交換を行って、家族の絆、支援が重要である事を理解して頂き、本人様と関わって貰えるようにしています。家族様支援も含めたケアプラン作成をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年は、入居される以前の馴染みの場所等へ外出支援や、趣味を行事に取り入れたりして支援に努めています。行事の開催等のお知らせを、家族様やご友人にも行い、一緒に楽しめる、関係性が継続できる様にも努めています。今年度は自粛しています。ご友人や家族様との電話や手紙のやり取りは、要望があれば支援行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や、気の合う入居者様同士の関りを工夫したり、他者との関りが得意ではない方にたいしては環境作りに努め、職員が架け橋となり孤立せず入居者様同士が関り共に楽しめる様に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、年賀状や広報誌の送付等を行って関係を継続する体制に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の視点でのアセスメントを心掛け、評価、見直しを繰り返して見えて来るニーズの支援行い、本人様らしい暮らしが出来るように努めています。日々の関りの中での本人様の意向や思いを、各居室担当が中心となって。ケアカルテやスタッフ会議で共有し些細な事も把握出来るように努めています。思いを表現出来ない入居者様には、非言語から伝わる印象を観察し理解を深める様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様、ご友人等からの情報や、これまでの担当者からの情報提供等の把握に努めています。又、日常会話からも把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での、本人様の言葉や感情を良く観察を行い、ケアカルテや生活リハビリの状況や申し送り等を通して情報共有や情報交換を行い、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、フロア会議で情報交換や課題を話し合っ、ケアプランに活かしています。本人様、家族様の意向を反映させた介護計画を作成して、3ヶ月に1回モニタリング、半年毎に見直しを行っています。又、変化があった時は随時見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援の内容や、過ごし方をケアカルテに具体的に記録して、内容を把握しています。又、スタッフや看護師からの情報を得ながら、定期的に評価や考察を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の情報提供や、診療所の医師、神経内科医の回診、訪問歯科、皮膚科の往診、散髪等、多様なニーズに対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々の協力や、社会資源の活用について協議を行って、入居者様1人ひとりがより良い暮らしが出来るように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様とご家族様の希望を尊重して、これまでのかかりつけ医に受診出来るように配慮、支援行っています。状況に応じては、職員が受診に同行したり、電話や手紙でかかりつけ医に状態説明を行っています。又、本人様とご家族様が納得した上で定期的に受診出来るように支援行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝と夕方の申し送りの時に入居者様の体調面等を看護師に報告、相談しています。又、日々の中でも報告を怠らずに、適切な看護が受けられる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時は、必ず医療機関の相談員の方に連絡して情報の共有をしています。又、入院中はお見舞いに行ったり、電話での情報交換を行うように体制をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に、延命処置の有無の確認を行っています。又、終末期を迎える前に本人様、家族様、主治医と話し合いを行って今後の対応の検討をしています。意見を聞きながら、受け入れ可能な施設等を紹介しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成して、周知行っています。救命講習や応急手当普及員等の外部研修にも参加して、内部研修や勉強会などでも応急手当や対応のシュミレーション訓練を行って身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を定めて、年2回避難訓練を実施しています。又、月2回自衛消防訓練を行って入居者様や職員が避難方法を把握出来るようにしています。訓練時には、通報、消火活動、避難誘導は職員が行っています。又、災害マニュアルの作成や数日間の食料と水を備蓄しており、炊き出しなどの訓練も実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人ひとりの人格を尊重して、誇りをもって生活が送れる様に支援しています。特に、排泄面や入浴時等の対応の時は、プライバシー保護に十分配慮行っています。同性介助のご希望にも、対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、常に選択肢を提供して、入居者様の希望を確認してから支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の体調や心身状況に応じた柔軟な支援を心掛けています。食事や入浴などは、個々のペースを崩さないように配慮しています。外出等の要望や希望があれば対応するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身が着たい服を選んで着用出来るように支援しています。外出や家族様の面会等の時も、入居者様のこだわりやおしゃれが発揮できるように支援しています。又、月1回、訪問理容美容を依頼しており、本人様の希望を伺っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の調理場で作った食事を提供しています。汁物の準備やご飯を炊く事、食器選びや盛り付けなど、職員と一緒にしています。温かい物は温かく、冷たい物は冷たくを心掛けて提供しています。月に1回、昼食レクレーションの実施を行い、買い物や調理をフロアで行っています。グループホームの畑で採れた野菜を使用したり、入居者様の要望を取り入れたりして、調理過程も入居者様と一緒にしています。又、体調により食事形態の変更もしています。月1回の給食会議で、食事の感想や希望も取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量を記録しています。食事摂取量が少なく、体重減少等が気になる方は、家族様と主治医に相談を行い、必要なカロリー摂取が出来るように支援行っています。水分摂取においては、1日を通して皆様でお茶やスポーツドリンクを飲んで楽しむ時間を作り、少ない方においては、必要に応じて水分摂取量の記録を行い脱水にならない様に支援おこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に、口腔ケアをして頂いています。歯磨きや義歯手入れ等、自身で出来る事をして頂ける様に支援おこなっています。その中で、口腔内トラブルがあれば、随時歯科医に報告、相談を行っています。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>終日、1人ひとりの排泄記録を表に付けて、排泄パターンを把握しています。個々の排泄パターンに合わせて、羞恥心と自尊心に配慮し声掛け誘導を行い、気持ち良くトイレで排泄が出来るように支援を行っています。又、支援方法の見直しや、ポータブルトイレの検討等も、随時行っています。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日中のレクリエーションや運動、水分不足にならない様に心掛けています。終日、排泄記録を表に付けて、個々の排便サイクルの把握にも努めています。排便困難の際は、看護師に報告行って指示を受けています。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>週に3回の入浴日を基本として、準備をする時から入居者様と一緒にを行っています。気分が乗らない時や、希望日がある時は柔軟に対応しています。同性介助の要望も事前に聞いて対応を行っています。又、季節を感じる変わり湯を楽しんで頂いたりしています。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>1人ひとりの生活に合わせた休息時間の確保をして、室温や湿度管理を行っています。又、夜間帯は1時間に1回巡回を行っています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の用法や副作用は、薬剤情報提供書にて確認を行い、適切な服薬支援を行っています。薬剤情報提供書は個人のケースにはさみ、スタッフがいつでも見れる状態で保管しています。又、服薬内容に変更が生じた場合は、申し送りノートに記入して、スタッフが把握出来るように努めています。又、看護師と連携して必要に応じて薬について尋ねたり勉強会を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様、1人1人が役割を持って生活して頂ける様に、今までの生活歴を把握して、食事の盛り付けや洗濯、掃除、洗い物等を支援しています。また、以前の趣味や得意とする事を継続出来るように個別に支援行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は、年間を通して散歩に出掛けたり、外気に触れる機会を作っていました。又、外食や買い物や行事等も家族様の了承を得て支援していました。今年度は、ほぼ自粛となりました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室で管理される方がいない状況です。例年は、買い物ツアー等で自分で商品を選び購入出来るように支援していました。今年は自粛しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者様の要望があれば、電話や手紙についても支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電球は、目に優しいLED電球に切り替えています。清潔な空間を保つために、毎日の清掃と週1回掃除を専門とする方が共用部の掃除を行ってくれています。又、季節感のある飾りつけをおこなっており、飾りに関しては、入居者様と一緒に作成を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置して、独りになれたり、気の合う入居者様同士が会話を楽しめる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が長年愛用されていた家具や衣類、思い出のもの等を持ち込まれ、居室内の配置も本人や家族様の意向を配慮して相談しながら行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様1人ひとりの出来る事を把握して、安心、安全に生活が送れる様にスタッフ会議で話し合い、環境整備を行っています。私物においては、各居室担当者と相談しています。お風呂やトイレ等、入居者様にわかりやすい様に表示しています。		